

職業実践専門課程の基本情報について

Table with columns for School Name, Establishment Date, Principal, Location, Course Name, and various educational metrics. Includes sections for 'Main Learning Outcomes' and 'Career Status'.

(留意事項)

- 1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。
2. 就職等の状況(※2)
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成25年12月17日～平成30年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成25年11月26日～平成30年3月31日(4年)	③
禰田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成25年10月2日～平成30年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成25年12月4日～平成30年3月31日(4年)	③
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回の実施(9月、3月)

(開催日時)

第1回 平成29年10月4日

第2回 平成30年2月23日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音楽や映像作品では、内容のレベルでなくパッケージの構築度が問題になってきています。一から作るのではなく、先人が残したパーツを組み立てているケースも増えています。質はベストを求められるので、技術的、音質的に優れたPCの活用が出来ると若手でも現場で通用してしまいます。

活用状況:「電子音楽」や「映像ゼミ」では一から素材を作るだけでなく、素材の編集によって新しいもの創っていく手法を、カリキュラム内で時間を増やして新しい世代のセンスが活かされるよう取り組んでいます。すでに制作ツールとして授業環境にPCを取り入れており、今後は個人所有も奨励していきます。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と連携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品・実習等における採点、出席率等総合評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資力の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・2017年5月25日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Tower of Power」
 ・2017年6月16日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員3名参加「The Manhattan Transfer」
 ・2018年1月23日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Bobby Caldwell」
 ・2018年2月15日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Victor Wooten」
 ・2018年3月28日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員4名参加「Ray Parker Jr.」
 内容: 質の良いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
 ・2018年3月29日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員75名参加
 内容: 学生とのコミュニケーションスキル研修会

(3) 研修等の計画
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・2018年11月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
 ・2018年12月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
 ・2019年1月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
 ・2019年2月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
 内容: 質の良いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
 ・2019年3月28日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加
 内容: コーチングスキル教員研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
 学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
 学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議を始めている。
 「音楽の学校があることが地域の発展につながると思っている。学校がもっと目立つよう[に]アピールに力を入れたほうが良い」との意見を頂き、在校生を業界へアピールするオーディションイベントを学園祭に関連させて行った。オーディションの開催時期については、学生が表現力を発揮しやすい時期などを検討し、地域・業界に対しアピールを行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿
 平成30年月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員
永田 淳義	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社日電社取締役)	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	吹田商工会議所 副会頭	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種類の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ)
 ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)・平成30年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を實踐していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
 ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 総合学科 ボーカルコース) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			音楽業界概論	音楽業界に関する成り立ちや組織などを学習していきます。また、著作権やソーシャルメディアへの対応など現代の音楽ビジネスに関する内容をあわせて学んでいきます。	1・2 年 通 年	128	8	○			○		○		
○			電子音楽	楽器のシステムなど電子楽器に関する基礎知識から、ポップスの歴史など現在の音楽シーンの成り立ちやアーティストに関する知識等を交えながら学習します。	1・2 年 通 年	128	8	○			○				○
○			ミュージックセリ-	基礎音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。譜面の読み方・書き方、基礎理論を学習することにより、読譜力や和音や旋律の基礎知識を学習します。	1・2 年 通 年	128	8	○			○			○	
○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、就職活動時に役立つスキルを学習します。	1・2 年 通 年	64	4	○			○				○
○			イートレینگ	音感力の向上を目指し実施する授業です。メロディ焼コードの聞き分けなどができるようにトレーニングしていきます。	1・2 年 通 年	128	8	○			○				○
	○		ボーカル実技	ひとり一人の音楽スタイルにおける表現力を高め、個々のオリジナリティーの確立を目指し、総合的に歌唱力を高めていきます。	1・2 年 通 年	384	12				○	○			○
	○		発声	歌唱に必要な発声法を理論と身体運動に基づいて学んでいきます。ボディーストレッチやプレスコントロールといったトレーニングをマスターします。	1・2 年 通 年	256	8				○	○			○
	○		リーディングセミ	楽譜の読み下記に関するベーシックを学びます。また、この授業は「アンサンブル」の授業とリンクしており、授業で演奏する課題曲を各パート別で学習します。	1・2 年 通 年	128	8		○		○				○
	○		コーラス	ハモリやユニゾンなどを学び、グループによるコーラスレッスンをを行います。また、アンサンブルとの運動によりステージングやアンサンブル力の向上を目指します。また、ステージ上でのルール、マナー、そして最小限の音響・照明・進行に至るまでの知識を理解、。ミュージシャンアーティストとしてのステージの在り方について	1・2 年 通 年	128	4				○	○			○
	○		演奏実技 (ボーカル、ギター、ドラム、ベース、パーカッション、シンセ、ピアノ)、エン지니어実習 (PA)、ミキシング実習、アンプアンプ、照明イテラス、エン지니어実習 (照明)	選択必修のうち、2科目を個人の方向性に合わせて選択して受講します。演奏系コースの学生が技術の授業を受講したり、技術系コースの学生が演奏系授業を受講したり幅広く学ぶことを目的として実施しています。	1・2 年 通 年	256	8				○	○			○
合計				11科目	1728単位時間(76単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

Table with columns for School Name, Establishment Date, Principal, Location, etc. It includes detailed information about the program's structure, objectives, and student outcomes.

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者のうち就職者総数の割合をいいます。
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成25年12月17日～平成30年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成25年11月26日～平成30年3月31日(4年)	③
禰田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成25年10月2日～平成30年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成25年12月4日～平成30年3月31日(4年)	③
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回の実施(9月、3月)

(開催日時)

第1回 平成29年10月4日

第2回 平成30年2月23日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音楽や映像作品では、内容のレベルでなくパッケージの構築度が問題になってきています。一から作るのではなく、先人が残したパーツを組み立てているケースも増えています。質はベストを求められるので、技術的、音質的に優れたPCの活用が出来ると若手でも現場で通用してしまいます。

活用状況:「電子音楽」や「映像ゼミ」では一から素材を作るだけでなく、素材の編集によって新しいもの創っていく手法を、カリキュラム内で時間を増やして新しい世代のセンスが活かされるよう取り組んでいます。すでに制作ツールとして授業環境にPCを取り入れており、今後は個人所有も奨励していきます。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と連携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品・実習等における採点、出席率等総合評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資力の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
・2017年5月25日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Tower of Power」
・2017年6月16日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員3名参加「The Manhattan Transfer」
・2018年1月23日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Bobby Caldwell」
・2018年2月15日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Victor Wooten」
・2018年3月28日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員4名参加「Ray Parker Jr.」
内容: 質の良いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
・2018年3月29日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員75名参加
内容: 学生とのコミュニケーションスキル研修会

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等
・2018年11月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2018年12月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2019年1月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2019年2月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
内容: 質の良いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
・2019年3月28日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加
内容: コーチングスキル教員研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議を始めている。
「音楽の学校があることが地域の発展につながると思っている。学校がもっと目立つよう」にアピールに力を入れた「ほうが良い」との意見を頂き、在校生を業界へアピールするオーディションイベントを学園祭に関連させて行った。オーディションの開催時期については、学生が表現力を発揮しやすい時期などを検討し、地域・業界に対しアピールを行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿
平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員
永田 淳義	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白電社取締役)	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	吹田商工会議所 副会頭	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種類の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)・平成30年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を實踐していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程ミュージシャン学科 ギター専攻) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			音楽業界概論	音楽業界に関する成り立ちや組織などを学習していきます。また、著作権やソーシャルメディアへの対応など現代の音楽ビジネスに関する内容をあわせて学んでいきます。	1・2年 通年	128	8	○			○		○			
○			音楽史	ポップスの歴史を通して、現在の音楽シーンの成り立ちや、ジャンルの派生、アーティストに関する知識等を学習します。	1・2年 通年	128	8	○			○			○		
○			音楽理論	基礎音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。譜面の読み方・書き方、基礎理論を学習することにより、読譜力や和音や旋律の基礎知識を学習します。	1・2年 通年	64	4	○			○		○			
○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話応対、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、履歴書の書き方や面接の受け方など就職活動時に役立つスキルを学習します。	1・2年 通年	64	4	○			○			○		
○			ギター実技	ギターの奏法を総合的に習得する授業です。また、ジャンルや音楽スタイルへのアプローチの方法を、ギターの特徴にあわせた音楽理論を絡めてスケール、コード知識といった側面を含めた演奏技術として学習します。	1・2年 通年	984	12				○	○			○	
○			ギターテクニック	楽器や機材についての実践的ノウハウなど、さまざまなテーマで講師の持つ個性的な音楽背景をもとに行なわれる授業です。	1・2年 通年	256	8				○	○			○	
○			ギターフレーズング	アーティスト、ギタリストの代表的な演奏から音楽的なアプローチを学習し、プレイヤーとしての音楽的ポキャブラリーを学習者自身の中に構築して行く事を目的とした授業です	1・2年 通年	128	8				○	○			○	
○			ギターリーディング	譜面を読む授業です。ギター指板上の音名理解。手のフォーム、確かな運指、ピッキング、リズム感、音符の長さなどを身につけていきます。	1・2年 通年	128	8				○	○			○	
○			REC&コンボース	アーティストに必要な音源制作知識及びCD制作のプロセスを、分り易く学ぶ為の講義授業です。DAWを中心とした録音機器のシステムや制作に関する知識を身に付けることが目的です。	1・2年 通年	128	4				○	○			○	
○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2年 通年	64	2				○	○			○	○
○			演奏実技 (ギター、ドラム、ベース、パーカッション、シンセ、DJ) 初級、上級アカデミック、作曲論、ライブ実習、ハコブ講座、英会話	選択必修のうち、2科目を個人の方向性に合わせて選択して受講します。専門分野以外の授業も開講しており、音楽業界の内容を幅広く学ぶことを目的として実施しています。	1・2年 通年	256	8				○	○			○	
合計			12科目		1728単位時間(74		単位)		74		単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 総合学科 ベースコース) 平成30年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			音楽業界概論	音楽業界に関する成り立ちや組織などを学習していきます。また、著作権やソーシャルメディアへの対応など現代の音楽ビジネスに関する内容をあわせて学んでいきます。	1・2年 通年	128	8	○			○			
○			電子音楽	楽器のシステムなど電子楽器に関する基礎知識から、ポップスの歴史など現在の音楽シーンの成り立ちやアーティストに関する知識等を交えながら学習します。	1・2年 通年	128	8	○			○			
○			ミュージックレター	基礎音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。譜面の読み方・書き方、基礎理論を学習することにより、読譜力や和音や旋律の基礎知識を学習します。	1・2年 通年	128	8	○			○			
○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話対応、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、就職活動時に役立つスキルを学習します。	1・2年 通年	64	4	○			○			
○			イートレニング	音感力の向上を目指し実施する授業です。メロディ焼コードの聞き分けなどができるようにトレーニングしていきます。	1・2年 通年	128	8	○			○			
○			ベース実技	ベーシックな技術からアドバンスな技術まで総合的に習得する授業です。また、ジャンルや音楽スタイルへのアプローチの方法を、音楽理論を絡めてスケール、コード知識といった側面を含めた演奏技術をベースという楽器の特性に合わせ、効果的に学習します。	1・2年 通年	256	8				○	○		
○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2年 通年	256	8				○	○	○	○
○			リーディングゼミ	楽譜の読み下記に関するベーシックを学びます。また、この授業は「アンサンブル」の授業とリンクしており、授業で演奏する課題曲を各パート別で学習します。	1・2年 通年	128	8	○			○			
○			ベースゼミ	スタイル別、ジャンル別の王道フレーズ・パターンを習得し、そこから個人のオリジナリティ発展への基礎を築きます。	1・2年 通年	128	4				○	○		
○			ベースアンサンブル	ベースを中心としたリズムアンサンブル授業です。他パートとのグルーヴやコンビネーションなどについて学習します。	1・2年 通年	128	4				○	○		
○			演奏実技 (ギター、ドラム、ベース、パーカッション、シベリア)、エン지니어リング実習 (PA)、ミキシング実習、アンサンブルイグニス、エン지니어リング実習 (照明)	選択必修のうち、2科目を個人の方向性に合わせて選択して受講します。演奏系コースの学生が技術の授業を受講したり、技術系コースの学生が演奏系授業を受講したり幅広く学ぶことを目的として実施しています。	1・2年 通年	256	8				○	○		
合計					12科目	1728単位時間(76単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上決定する。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成25年12月17日～平成30年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成25年11月26日～平成30年3月31日(4年)	③
禰田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成25年10月2日～平成30年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成25年12月4日～平成30年3月31日(4年)	③
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回の実施(9月、3月)

(開催日時)

第1回 平成29年10月4日

第2回 平成30年2月23日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音楽や映像作品では、内容のレベルでなくパッケージの構築度が問題になってきています。一から作るのではなく、先人が残したパーツを組み立てているケースも増えています。質はベストを求められるので、技術的、音質的に優れたPCの活用が出来ると若手でも現場で通用してしまいます。

活用状況:「電子音楽」や「映像ゼミ」では一から素材を作るだけでなく、素材の編集によって新しいもの創っていく手法を、カリキュラム内で時間を増やして新しい世代のセンスが活かされるよう取り組んでいます。すでに制作ツールとして授業環境にPCを取り入れており、今後は個人所有も奨励していきます。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と連携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品・実習等における採点、出席率等総合評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資力の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績
① 専攻分野における実務に関する研修等
・2017年5月25日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Tower of Power」
・2017年6月16日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員3名参加「The Manhattan Transfer」
・2018年1月23日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Bobby Caldwell」
・2018年2月15日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Victor Wooten」
・2018年3月28日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員4名参加「Ray Parker Jr.」
内容: 質の高いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
・2018年3月29日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員75名参加
内容: 学生とのコミュニケーションスキル研修会

(3) 研修等の計画
① 専攻分野における実務に関する研修等
・2018年11月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2018年12月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2019年1月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2019年2月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
内容: 質の高いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
・2019年3月28日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加
内容: コーチングスキル教員研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議を始めている。
「音楽の学校があることが地域の発展につながると思っている。学校がもっと目立つよう」にアピールに力を入れた「ほうが良い」との意見を頂き、在校生を業界へアピールするオーディションイベントを学園祭に関連させて行った。オーディションの開催時期については、学生が表現力を発揮しやすい時期などを検討し、地域・業界に対しアピールを行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿
平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員
永田 淳義	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白電社取締役)	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	吹田商工会議所 副会頭	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)・平成30年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を實踐していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																					
キャットミュージックカレッジ専門学校	昭和63年3月30日	井原 延治	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人大阪創都学園	昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																				
文化・教養	文化・教養専門課程	総合学科ベースコース	平成17年文部科学省告示第176号	-																				
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき幅広く音楽表現及びスタッフ技術に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																							
認定年月日	平成26年 3月31日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																	
2年	昼間	1728	576	128	1024																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
80人	58人	0人	4人	6人	10人																			
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																				
長期休み	■学年始め: 4月11日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月9日 ■学年末: 3月21日	卒業・進級条件		前後期総合評価結果及び2/3以上の出席																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有	課外活動		■課外活動の種類 なし ■サークル活動: 無																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MIDI検定</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	MIDI検定	③	0人	0人									
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					
MIDI検定	③	0人	0人																					
	■卒業者数: 28人 ■就職希望者数: 16人 ■就職者数: 10人 ■就職率: 46.43% ■卒業者に占める就職者の割合: 62.50%		※種類の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
	■その他 ・進学者数: 0人		■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																					
中途退学の現状	■中途退学者: 6名 平成29年4月1日時点において、在学者58名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者50名(平成30年3月31日卒業生を含む)		■中退率: 10%																					
	■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為																							
	■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的に実施、個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																							
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: http://www.cat.ac.jp/support/subject.html)																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の割合をいいます。
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進出者数です。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
キャットミュージックカレッジ専門学校	昭和63年3月30日	井原 延治	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人大阪創都学園	昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化・教養専門課程	総合学科ドラムコース	平成17年文部科学省告示第176号	-																							
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき幅広く音楽表現及びスタッフ技術に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																										
認定年月日	平成26年 3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	1728	576	128	1024																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
80人	46人	0人	2人	8人	10人																						
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日	成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																							
長期休み	■学年始め：4月11日 ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月21日～1月9日 ■学年末：3月21日	卒業・進級条件		前後期総合評価結果及び2/3以上の出席																							
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有	課外活動		■課外活動の種類 なし ■サークル活動：無																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界 ■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション ■卒業者数 28 人 ■就職希望者数 16 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 : 41.67% % ■卒業者に占める就職者の割合 : 68.97% % ■その他 ・進学者数： 0人 (平成 29 年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MIDI検定</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	MIDI検定	③	0人	0人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
MIDI検定	③	0人	0人																								
中途退学の現状	■中途退学者 6 名 平成29年4月1日時点において、在学者5名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者5名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的に実施。個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。		■中退率 10 %																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: http://www.cat.ac.jp/support/subject.html)																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の割合をいいます。
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成25年12月17日～平成30年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成25年11月26日～平成30年3月31日(4年)	③
禰田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成25年10月2日～平成30年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成25年12月4日～平成30年3月31日(4年)	③
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回の実施(9月、3月)

(開催日時)

第1回 平成29年10月4日

第2回 平成30年2月23日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音楽や映像作品では、内容のレベルでなくパッケージの構築度が問題になってきています。一から作るのではなく、先人が残したパーツを組み立てているケースも増えています。質はベストを求められるので、技術的、音質的に優れたPCの活用が出来ると若手でも現場で通用してしまいます。

活用状況:「電子音楽」や「映像ゼミ」では一から素材を作るだけでなく、素材の編集によって新しいもの創っていく手法を、カリキュラム内で時間を増やして新しい世代のセンスが活かされるよう取り組んでいます。すでに制作ツールとして授業環境にPCを取り入れており、今後は個人所有も奨励していきます。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と連携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品・実習等における採点、出席率等総合評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資力の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績
① 専攻分野における実務に関する研修等
・2017年5月25日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Tower of Power」
・2017年6月16日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員3名参加「The Manhattan Transfer」
・2018年1月23日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Bobby Caldwell」
・2018年2月15日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Victor Wooten」
・2018年3月28日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員4名参加「Ray Parker Jr.」
内容: 質の良いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
・2018年3月29日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員75名参加
内容: 学生とのコミュニケーションスキル研修会

(3) 研修等の計画
① 専攻分野における実務に関する研修等
・2018年11月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2018年12月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2019年1月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2019年2月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
内容: 質の良いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
・2019年3月28日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加
内容: コーチングスキル教員研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議を始めている。
「音楽の学校があることが地域の発展につながると思っている。学校がもっと目立つよう」にアピールに力を入れた「ほうが良い」との意見を頂き、在校生を業界へアピールするオーディションイベントを学園祭に関連させて行った。オーディションの開催時期については、学生が表現力を発揮しやすい時期などを検討し、地域・業界に対しアピールを行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿
平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員
永田 淳義	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白電社取締役)	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	吹田商工会議所 副会頭	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種類の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)・平成30年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を實踐していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 総合学科 ドラムコース) 平成30年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			音楽業界概論	音楽業界に関する成り立ちや組織などを学習していきます。また、著作権やソーシャルメディアへの対応など現代の音楽ビジネスに関する内容をあわせて学んでいきます。	1・2 年 通 年	128	8	○			○			
○			電子音楽	楽器のシステムなど電子楽器に関する基礎知識から、ポップスの歴史など現在の音楽シーンの成り立ちやアーティストに関する知識等を交えながら学習します。	1・2 年 通 年	128	8	○			○			
○			ポピュラーミュージックセリ-	基礎音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。譜面の読み方・書き方、基礎理論を学習することにより、読譜力や和音や旋律の基礎知識を学習します。	1・2 年 通 年	128	8	○			○			
○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話応対、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、就職活動時に役立つスキルを学習します。	1・2 年 通 年	64	4	○			○			
○			イートレニング	音感力の向上を目指し実施する授業です。メロディ焼コードの聞き分けなどができるようにトレーニングしていきます。	1・2 年 通 年	128	8	○			○			
○			ドラム 実技	ドラムという打楽器の奏法をベーシックな技術からアドバンスな技術を習得する授業です。また、ジャンルや音楽スタイルへのアプローチの方法を、ドラムという打楽器の特性に合わせて学習します。	1・2 年 通 年	256	8			○	○		○	
○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2 年 通 年	256	8			○	○		○	○
○			リーディングゼミ	譜面に表された音楽情報を読み取り、専門とする楽器演奏へと繋げて行けることを目的としたトレーニング授業です。記号化された音楽情報を個人の解釈を含めた楽器的な演奏表現が行なえる事を目指します。	1・2 年 通 年	128	8	○			○		○	
○			ドラムゼミ	楽譜の読み下記に関するベーシックを学びます。また、この授業は「アンサンブル」の授業とリンクしており、授業で演奏する課題曲を各パート別で学習します。	1・2 年 通 年	128	4			○	○		○	
○			リズムアンサンブル	ドラムを中心としたリズムアンサンブル授業です。他パートとのグルーブやコンビネーションなどについて学習します。	1・2 年 通 年	128	4			○	○		○	
○			演奏実技 (キーボード、ギター、ドラム、ベース、パーカッション、シンセ、ピアノ)、エン지니어実習 (PA)、ミキシング実習、アンサンブルイタズラ、エン지니어実習 (照明)	選択必修のうち、2科目を個人の方向性に合わせて選択して受講します。演奏系コースの学生が技術の授業を受講したり、技術系コースの学生が演奏系授業を受講したり幅広く学ぶことを目的として実施しています。	1・2 年 通 年	256	8			○	○		○	
合計				12科目	1728単位時間 (76単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上決定する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																					
キャットミュージックカレッジ専門学校	昭和63年3月30日	井原 延治	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																					
学校法人大阪創都学園	昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101																					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																				
文化・教養	文化・教養専門課程	総合学科キーボードコース	平成17年文部科学省告示第176号	-																				
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき幅広く音楽表現及びスタッフ技術に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。																							
認定年月日	平成26年 3月31日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																	
2	昼間	1728	576	128	1024																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
80人	46人	0人	2人	8人	10人																			
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日	成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価																				
長期休み	■学年始め：4月11日 ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月21日～1月9日 ■学年末：3月21日	卒業・進級条件		前後期総合評価結果及び2/3以上の出席																				
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有	課外活動		■課外活動の種類 なし ■サークル活動：無																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 音楽・エンタテインメント業界		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MIDI検定</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	MIDI検定	③	0人	0人									
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																					
MIDI検定	③	0人	0人																					
	■卒業者数 28人 ■就職希望者数 16人 ■就職者数 10人 ■就職率 46.43% ■卒業者に占める就職者の割合 62.50%		※種類の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
	■その他 ・進学者数：0人		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																					
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成29年4月1日時点において、在学者58名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者50名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的に実施、個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。		■中退率 10%																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																							
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: http://www.cat.ac.jp/support/subject.html)																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の割合をいいます。
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成25年12月17日～平成30年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成25年11月26日～平成30年3月31日(4年)	③
禰田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成25年10月2日～平成30年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成25年12月4日～平成30年3月31日(4年)	③
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回の実施(9月、3月)

(開催日時)

第1回 平成29年10月4日

第2回 平成30年2月23日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音楽や映像作品では、内容のレベルでなくパッケージの構築度が問題になってきています。一から作るのではなく、先人が残したパーツを組み立てているケースも増えています。質はベストを求められるので、技術的、音質的に優れたPCの活用が出来ると若手でも現場で通用してしまいます。

活用状況:「電子音楽」や「映像ゼミ」では一から素材を作るだけでなく、素材の編集によって新しいもの創っていく手法を、カリキュラム内で時間を増やして新しい世代のセンスが活かされるよう取り組んでいます。すでに制作ツールとして授業環境にPCを取り入れており、今後は個人所有も奨励していきます。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と連携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品・実習等における採点、出席率等総合評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	有限会社ヘッドライン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資力の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
・2017年5月25日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Tower of Power」
・2017年6月16日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員3名参加「The Manhattan Transfer」
・2018年1月23日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Bobby Caldwell」
・2018年2月15日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加「Victor Wooten」
・2018年3月28日 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員4名参加「Ray Parker Jr.」
内容: 質の良いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
・2018年3月29日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員75名参加
内容: 学生とのコミュニケーションスキル研修会

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等
・2018年11月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2018年12月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2019年1月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
・2019年2月 Billboard Live OSAKA 演奏指導教員2名参加
内容: 質の良いベテラン音楽家、著名な演奏家の生演奏に直接触れ、演奏表現力の研究を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等
・2019年3月28日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加
内容: コーチングスキル教員研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議を始めている。
「音楽の学校があることが地域の発展につながると思っている。学校がもっと目立つよう」にアピールに力を入れた「ほうが良い」との意見を頂き、在校生を業界へアピールするオーディションイベントを学園祭に関連させて行った。オーディションの開催時期については、学生が表現力を発揮しやすい時期などを検討し、地域・業界に対しアピールを行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿
平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員
永田 淳義	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社日電社取締役)	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	吹田商工会議所 副会頭	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種類の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)・平成30年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を實踐していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 総合学科 キーボードコース) 平成30年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			音楽業界概論	音楽業界に関する成り立ちや組織などを学習していきます。また、著作権やソーシャルメディアへの対応など現代の音楽ビジネスに関する内容をあわせて学んでいきます。	1・2 年 通 年	128	8	○			○	○		
○			電子音楽	楽器のシステムなど電子楽器に関する基礎知識から、ポップスの歴史など現在の音楽シーンの成り立ちやアーティストに関する知識等を交えながら学習します。	1・2 年 通 年	128	8	○			○		○	
○			ポピュラーミュージック概論	基礎音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。譜面の読み方・書き方、基礎理論を学習することにより、読譜力や和音や旋律の基礎知識を学習します。	1・2 年 通 年	128	8	○			○	○		
○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話応対、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、就職活動時に役立つスキルを学習します。	1・2 年 通 年	64	4	○			○		○	
○			イヤートレーニング	音感力の向上を目指し実施する授業です。メロディ焼コードの聞き分けなどができるようにトレーニングしていきます。	1・2 年 通 年	128	8	○			○		○	
○			キーボード実技	キーボードの奏法をベーシックな技術からアドバンスな技術まで総合的に習得する授業です。また、ジャンルや音楽スタイルへのアプローチの方法を演奏技術として学習します。	1・2 年 通 年	256	8			○	○		○	
○			アンサンブル	アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マナー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。	1・2 年 通 年	256	8			○	○		○	
○			リーディングゼミ	楽譜の読み下記に関するベーシックを学びます。また、この授業は「アンサンブル」の授業とリンクしており、授業で演奏する課題曲を各パート別で学習します。	1・2 年 通 年	128	8	○			○		○	
○			キーボードゼミ	スタイル別、ジャンル別の王道パターンを習得し、そこから個人のオリジナリティを発展への基礎を築きます。なお、鍵盤演奏における基本能力向上のためにハノンなどを用いたトレーニングも行います。	1・2 年 通 年	128	4			○	○		○	
○			キーボード連弾	キーボードによるアンサンブル力強化のための授業です。連弾することによりそれぞれの役割やコンビネーションを体感していきます。	1・2 年 通 年	128	4			○	○		○	
○			演奏実技 (キーボード、ギター、ドラム、ベース、パーカッション、シンセ、DJ)	選択必修のうち、2科目を個人の方向性に合わせて選択して受講します。演奏系コースの学生が技術の授業を受講したり、技術系コースの学生が演奏系授業を受講したり幅広く学ぶことを目的として実施しています。	1・2 年 通 年	256	8			○	○		○	
合計				12科目	1728単位時間(76単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者で打ち合わせの上決定する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
キャットミュージックカレッジ専門学校	昭和63年3月30日	井原 延治	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人大阪創都学園	昭和63年3月30日	鈴木 雅文	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-29-18 (電話) 06-6369-1101				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	総合学科総合スタッフコース	平成17年文部科学省告示第176号	-			
学科の目的	教育基本法、及び学校教育法に基づき幅広く音楽表現及びスタッフ技術に関し必要とされる技能を養成し、又は教育の向上を図ることを目的とする。						
認定年月日	平成26年 3月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	1728	576	128	1024		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	46人	0人	2人	8人	10人		
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日	成績評価		■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 前後期試験結果及び出席・平常点等総合評価			
長期休み	■学年始め：4月11日 ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月21日～1月9日 ■学年末：3月21日	卒業・進級条件		前後期総合評価結果及び2/3以上の出席			
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 電話・家庭訪問及び保護者との情報共有	課外活動		■課外活動の種類 なし ■サークル活動：無			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 音楽・音響・照明・映像関連業界		■就職指導内容 ・企業研修/就活対策講座/業界企業合同説明会 ・CATチャレンジシステム/公開オーディション		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		
	■卒業者数 28人 ■就職希望者数 16人 ■就職者数 13人 ■就職率 81.25% ■卒業者に占める就職者の割合 46.43% ■その他 ・進学者数：0人						
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成29年4月1日時点において、在学者58名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者50名(平成30年3月31日卒業者を含む)		■中退率 10.34%		資格・検定名 種 受験者数 合格者数 0人 0人 0人 0人		
	■中途退学の主な理由 ・経済的理由 ・別途進路へ進む為 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談を定期的に実施。個別のマッチング状況を確認。また、毎月の出席率管理を行い保護者とも連絡を取り登校を促すことで継続意欲を持たせる。						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付：非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科のホームページURL	ホームページにおいて公開(URL: http://www.cat.ac.jp/support/subject.html)						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の割合をいいます。
②「就職」とは給料、資金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成25年12月17日～平成30年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成25年11月26日～平成30年3月31日(4年)	③
禰田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成25年11月29日～平成30年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成25年10月2日～平成30年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成25年12月4日～平成30年3月31日(4年)	③
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回の実施(9月、3月)

(開催日時)

第1回 平成29年10月4日

第2回 平成30年2月23日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見:音楽や映像作品では、内容のレベルでなくパッケージの構築度が問題になってきています。一から作るのではなく、先人が残したパーツを組み立てているケースも増えています。質はベストを求められるので、技術的、音質的に優れたPCの活用が出来ると若手でも現場で通用してしまいます。

活用状況:「電子音楽」や「映像ゼミ」では一から素材を作るだけでなく、素材の編集によって新しいもの創っていく手法を、カリキュラム内で時間を増やして新しい世代のセンスが活かされるよう取り組んでいます。すでに制作ツールとして授業環境にPCを取り入れており、今後は個人所有も奨励していきます。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・講師派遣における学内授業の実施
- ・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
- ・前後期試験の実施、作品・実習等における採点、出席率等総合評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ライティング実習	照明器具の取り扱いや実践に近い形での「仕込み」を学習します。また、調光操作卓の操作方法や楽曲とキューシートに合わせて、オペレートを行います。	有限会社 ミス・ユー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めていく。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等
・2017年6月22日 株式会社ワタベ楽器 音響指導教員1名参加 内容:音響機器展示会、主にCPAの各メーカー新機種を確認。
・2017年11月22日 株式会社スター・テック 音響指導教員3名参加 内容:コンサートPAの第一人者より、サウンドチェックからコンサート本番まで、音響調整技術のレクチャーを受ける。
・2018年2月20日 株式会社テクノカル・アート 照明指導教員1名参加 内容:最新機材や現場で主眼となる照明機材について、演出効果や仕込み方のレクチャーを受ける。
・2018年2月20日 関西舞台テレビテク&アート共同組合 音響指導教員4名、照明指導教員4名、イベント制作指導教員1名参加 内容:コンサートイベントで用いるインスト(足場)組立て作業に係る特別教育講習。

②指導力の修得・向上のための研修等
・2018年3月29日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員75名参加
内容:学生とのコミュニケーションスキル研修会

(3) 研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
・2018年9月 株式会社ワタベ楽器 音響指導教員1名参加 内容:音響機器展示会、主にCPAの各メーカー新機種を確認。
・2018年7月19日 関西舞台テレビテク&アート共同組合 音響指導教員2名、イベント制作指導教員1名参加 内容:コンサートイベントで用いるインスト(足場)組立て作業に係る特別教育講習。
・2019年2月 株式会社テクノカル・アート 音響指導教員3名参加 内容:コンサートPAで使用されるフライングスピーカー設置方法の特別レクチャー
・2019年2月 株式会社テクノカル・アート 照明指導教員1名参加 内容:最新機材や現場で主眼となる照明機材について、演出効果や仕込み方のレクチャーを受ける。

②指導力の修得・向上のための研修等
・2019年3月28日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加
内容:コーチングスキル教員研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校教育活動についてを説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議を始めている。
「専門分野の勉強は理解できるが、一般教養的、社会的教養を持たせることも大切だと感じる。大学等ではクラブ活動やアルバイトなど社会経験で培われていくものだと思う」とのご意見を頂き、外部イベントへの参加や企業研修へ出ることを奨励している。一般社会との繋がりはクラブ活動やアルバイトと同程度だと思われ、就活だけでなく個人のスキルアップのためにも積極的に参加するよう担任制の中で指導を行う。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿
平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 前治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員
永田 淳義	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白電社取締役)	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	吹田商工会議所 副会頭	平成25年11月20日～平成30年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)・平成30年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
ホームページにおいて公開(URL: <http://www.cat.ac.jp/information/public>)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 総合学科 総合スタッフコース) 平成30年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			音楽業界概論	音楽業界に関する成り立ちや組織などを学習していきます。また、著作権やソーシャルメディアへの対応など現代の音楽ビジネスに関する内容をあわせて学んでいきます。	1・2年 通年	128	8	○		○		○		
	○			電子音楽	楽器のシステムなど電子楽器に関する基礎知識から、ポップスの歴史など現在の音楽シーンの成り立ちやアーティストに関する知識等を交えながら学習します。	1・2年 通年	128	8	○		○			○	
	○			ミュージックセラー	基礎音楽理論と音楽ジャンルや各種楽器への理解を深めます。譜面の読み方・書き方、基礎理論を学習することにより、読譜力や和音や旋律の基礎知識を学習します。	1・2年 通年	128	8	○		○		○		
	○			一般教養	仕事への取り組み姿勢、挨拶や敬語の使い方、電話応対、名刺交換の仕方などのビジネスマナーと共に、就職活動時に役立つスキルを学習します。	1・2年 通年	64	4	○		○			○	
	○			イヤートレーニング	音感力の向上を目指し実施する授業です。メロディ焼コードの聞き分けなどができるようにトレーニングしていきます。	1・2年 通年	128	8	○		○			○	
	○			音響工学	音響エンジニアにとって必要な知識を講義形式で学びます。「音響映像設備マニュアル」を用いて、音の基礎から用語の解説、実際に現場で使用する機材の概要や構造を学習します。	1・2年 通年	128	8	○		○			○	
	○			照明実技	知識として必要な舞台用語、歴史、直流電流、交流電流などの電気的な知識を学びます。また、専門用語や照明器具の構造、フィルターの種類、舞台照明設備、交流電流について学習します。	1・2年 通年	128	4			○	○		○	
	○			コンピュータ実技	Excel、Word、PowerPointなどの一般ソフトの使用方法を学びます。ソフトウェアの理解だけでなくプレゼンテーションする事も合わせて学んでいきます。	1・2年 通年	128	4			○	○		○	
	○			ミキシング実技	ミキシングコンソールを使用し、信号の流れや各部の名称・役割など使用方法について繰り返し学習します。また、ミキシングに必要なエフェクターの種類や基礎知識、使用方法を学習します。	1・2年 通年	128	4			○	○		○	
	○			映像ゼミ	ショートムービーの制作からライブ撮影といった作品を企画から編集まで学習していきます。また、動画編集ソフトの操作方法の理解からカット割り等の基礎知識を身につけます。	1・2年 通年	128	4			○	○		○	
	○			PA実習	PAの現場で必要な基本的な作業を繰り返し練習することで迅速かつ安全に行う作業を習得します。また、小規模PAシステムのセッティングを学習し、PAシステムの基礎を学びます。	1・2年 通年	128	4			○	○		○	
	○			ライティング実習	照明器具の取り扱いや実践に近い形での「仕込み」を学習します。また、調光操作卓の操作方法や楽曲とキューシートに合わせて、オペレートを行います。	1・2年 通年	128	4			○	○		○	
	○			演奏実技(管・弦・打楽器、ダンス、パフォーマンス、ミュージック実習(PA)、ミュージック実習、ライブ実習、ミュージック実習(照明))	選択必修のうち、2科目を個人の方向性に合わせて選択して受講します。演奏系コースの学生が技術の授業を受講したり、技術系コースの学生が演奏系授業を受講したり幅広く学ぶことを目的として実施しています。	1・2年 通年	256	8			○	○		○	
合計					14科目		1728単位時間(76単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。